

令和元年5月30日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03496

研究課題名(和文) 実践的指導力の育成を目指す小学校英語教員養成の高度化に関するカリキュラム策定

研究課題名(英文) Advanced Curriculum Development for Practical Teaching Skills in the Pre-Service Teacher Training Course of Primary English Education

研究代表者

本田 勝久 (HONDA, Katsuhisa)

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：60362745

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,300,000円

研究成果の概要(和文)：小学校の教育課程に英語が教科として追加されることに伴い、小学校英語教科教育法及び教科専門科目を組み込んだカリキュラムを編成し、専門職としての高度な知識と技能を身につけた小学校英語の指導的役割を担う教員を育成するための教員養成の高度化に関するカリキュラムを提案した。具体的には、東アジア諸国における小学校英語教科専門科目の枠組みを整理し、「小学校教員養成 外国語(英語)コアカリキュラム」を踏まえて、今後の日本の小学校英語教員養成に関する教科専門科目の位置づけと履修基準を提案した。また、既存の授業科目の枠を超えた学外学修プログラム(海外教育実習など)のような教員養成の高度化に対応する方策を検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、教職課程のグローバル化、教員養成の高度化、教育課題の輻輳化に対応するため、小学校英語教員養成の高度化に関するカリキュラムを策定し、小学校英語教科教育法及び教科専門科目を構築することを目的としている。全科担任養成から専科教員養成へと段階的に移行するための教科専門科目を構築することによって、日本の担任養成を生かした小学校英語教員養成と指導者育成を報告する。本研究で取り組む「実践的指導力の育成を目指す小学校英語教員養成カリキュラム」は、新たな教員養成と免許制度を見据えて、教員の能力向上や教育実習のあり方を視野に入れたものである。今後の教員養成に資する研究として位置づけられる。

研究成果の概要(英文)：We commenced with an overview of the current state of pre-service teacher training for primary English education in Japan, and then established standards for pre-service training for foreign language teachers and to suggest quality and ability criteria for teachers who conduct primary English education. This study focused on the relationship between pre-service teacher courses for primary English education and practical teacher training and discusses a solution to the problem regarding what kind of preparation system is needed. MEXT requires standards in universities offering pre-service training courses, and the idea of standards was reflected in the introduction of the practical training program. The standards proposed in this study will contribute to the students' understanding of what they need to pay attention to in their universities, what they must revise from what they learned through their fieldwork, and how to link what they learned in their fieldwork and at university.

研究分野：教科教育学

キーワード：教員養成 小学校英語 カリキュラム策定 実践的指導力 高度化

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 教育再生実行会議のグローバル化への対応等に関する提言案が示され、世界で活躍する人材育成に向け、現在小学校高学年で行われている英語教育について正式な教科にすることや、開始学年を引き下げることが進言された。このような背景には、東アジアを中心とした小学校英語教育の推進が挙げられる。中国、韓国、台湾をはじめとした国々では、グローバル化に対応した次世代の人材育成の根幹として小学校からの英語教育が進められている。今後の日本の小学校英語「教科化」に対応するため、東アジアにおける小学校英語の現状を把握するとともに、先駆けて英語を教科として導入している中国、韓国、台湾の指導者養成及び研修からの知見を得て、小学校英語を担当できる質の高い教員を確保するための養成・採用・研修の在り方を模索することは、日本の急務の課題である。

(2) 小学校免許状の認定課程を有する大学を調査した本田・粕谷・建内・松宮 (2011) の報告では、外国語活動に関する教職課程の開設状況は、国立で 51 大学 (全体の 62%)、私立は 145 大学 (全体の 31%) であり、大学及び大学院において外国語活動を担当する教員を養成するための制度的な枠組みやカリキュラムが十分に整備されているとはいえない。その理由として、1) 中学校の英語免許取得者は小学校の免許も取得するものが多いこと、2) 設置する人的・経済的余裕がないこと、3) 早期英語教育の内容を授業に盛り込むことで対応する、等の理由が考えられている。また、小学校教員養成課程に英語専修 (または選修) を有する大学の課題として、それぞれの大学や地域の特色を生かした教員養成が行われている一方で、教職の複雑性や総合性を断片化させる危険性、小学校英語に関する科目を盛り込むカリキュラム編成や教職課程の組織編製の難しさが指摘されている (Honda, Takeuchi, & Kasuya, 2012)。

(3) 文部科学省 (2015) では、1) 小学校と中学校の連携推進、2) 小学校での専科指導教員の配置、3) 複数学校種の免許状取得、4) 外国人指導者の登用等が議論されている。また、複雑化する学校現場の課題に対応するため、実践的指導力を強化し、社会の変化に応じた知識や技能を学び続ける教師像が求められている。小学校英語の指導においても高度な教育実践力を身につけた教員を養成することは大学の責務である。本研究は、このような諸課題に対応するため、小学校英語を担当する教員養成の高度化を考慮した小学校英語に関するカリキュラムを策定する。また、長期的な成長モデル (学びの継続性と発展性) を見通した実践的指導力を育成するプログラムを構築する。さらに、教科と教職に関する専門的知識と技能を身につけた「小学校教員 + 英語指導担当教員」を養成するカリキュラムを具現化する。

2. 研究の目的

(1) 各教員養成系大学及び教育学部では、2015 年 12 月の中央教育審議会答申 (「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上」) において提言された事項を踏まえ、小学校教員養成における新規開講科目や履修基準について検討を重ねている。また、小学校の教育課程に英語が教科として追加されることに伴い、小学校教科及び教職科目の履修基準を見直し、カリキュラム改正を審議している。本研究は、小学校英語教員養成の高度化に関するカリキュラムを策定し、小学校英語教科教育法及び教科専門科目を構築することを目的とする。1) 教職課程のグローバル化、2) 教員養成の高度化、3) 教育課題の輻輳化に対応するため、教科専門科目を組み込んだカリキュラムを編成し、専門職としての高度な知識と技能を身につけた小学校英語の指導的役割を担う教員を育成するための教員養成カリキュラムを提案する。

(2) 中国、韓国、台湾をはじめとした国々では、グローバル化に対応した次世代の人材育成の根幹として小学校からの英語教育が進められている。日本の小学校英語「教科化」に対応するため、東アジアにおける小学校英語の現状を把握するとともに、先駆けて英語を教科として導

入している中国，韓国，台湾の指導者養成からの知見を得て，小学校英語を担当できる質の高い教員を確保するための養成の在り方を模索することは，日本の急務の課題である。本研究では，次世代を見据えた中国，韓国，台湾の初等教員養成システムを参照し，日本の教員養成カリキュラムを見直し，小学校英語教員養成の高度化に関するカリキュラムを提案する。特に，東アジア諸国における小学校英語教科専門科目の枠組みを紹介し，「小学校教員養成 外国語（英語）コアカリキュラム」を踏まえて，今後の日本の小学校英語教員養成に関する教科専門科目の位置づけと履修基準を提案する。

3．研究の方法

- (1) 小学校英語教員を教員としての総合的な力量を有し，かつ英語を指導するのに十分な英語力と指導力を有する「小学校教員＋英語指導担当教員」と位置づけ，基礎データを収集する。「小学校英語を指導するのに必要な英語力や指導力とは何か」を明らかにし，学級経営・授業運営・児童理解といった力量を備えた小学校教員を養成するためのスタンダードを策定する。
- (2) 東アジア諸国での専門科目とコアカリキュラムに基づき，教科及び教職科目との相互補完関係を築く小学校英語の専門科目を検討する。「教科としての英語教育」を踏まえて，目的論・教材論・方法論・評価論等の教科専門科目を組み込んだカリキュラム構成案を提案する。また，小学校英語のための履修基準や教職関連科目（初等教科教育法）の枠組みを構築する
- (3) 小学校英語実践力を向上させるインターンシップ制度を検証する。また，既存の授業科目の枠を超えた学外学修プログラム（海外教育実習等）のような教員養成の高度化に対応する方策を導入する。小学校英語教員養成におけるカリキュラムデザインを確立し，教育実習の在り方を検証し，学校現場や教育委員会との連携・協働による実践型プログラムを構築する。
- (4) 小学校英語のための教員養成カリキュラムを具現化するため，開発したカリキュラムの修正と改善，各大学内でのパイロット実施等を踏まえて，カリキュラム基準を評価・確立する。本研究で取り組む「実践的指導力の育成を目指す小学校英語教員養成カリキュラム」は，新たな教員養成と免許制度を見据えて，現職教員の能力向上や教職大学院における教育実習の在り方（本研究ではインターンシップ）を視野に入れたものである。教員養成と教員研修の充実を図るために弾力性を帯びていなければならない。さらには，教育委員会や地域社会と連携し，専門職である教師として総合的な力量を有する教員を養成するためのカリキュラムを構築し，今後の教員養成に資する研究として位置づける。

4．研究成果

- (1) 平成 27 年度：初等外国語教員養成を実現している東アジア諸国を訪問し，教育大学及び師範大学における教員養成及び教育実習に関する文献や資料を入手した。現地では小学校での外国語授業を見学し，実際の授業を分析した。また，入手した文献や資料を英語ないし日本語に翻訳した。小学校英語の教科化を踏まえ，小学校教員養成課程に英語専修（選修）を有する大学を訪問し，各大学での取り組みや専門職基準（Professional Standards）に関する資料を収集した。小学校英語における教員養成スタンダードを策定するためには，1) 小学校英語を指導するのに必要な能力が明確であること（説明責任），2) そのカリキュラムで学んだ学生が「専門職である教師として必要な能力」を身につけていること（結果責任），3) カリキュラムの改善が継続的・組織的に実施されること（アセスメント），4) カリキュラムを用意できる教育・研究体制が整備されていること，等が必要である。これらの要因を考慮し，内外部によるインスペクションとアセスメントを前提とした小学校英語における教員養成スタンダードを策定した。
- (2) 平成 28 年度：小学校英語教員を「小学校教員＋英語指導担当教員」と位置づけ，基礎デー

タを収集した。「小学校英語を指導するのに必要な英語力や指導力とは何か」を明らかにするとともに、中教審答申「教員として求められる事項」に基づき、教科及び教職科目との相互補完関係を築く小学校英語の専門科目を提案した。提案したピラミッド型の授業内容を構築するとともに、指導的役割を担う小学校英語教員を養成するカリキュラムの位置づけをデザインした。平成 28 年度は、このカリキュラム構成案を改善及び修正し、小学校英語のための履修基準や教職関連科目（初等教科教育法）の枠組みを構築した。さらには、「教育実践力向上のための質的保証と評価」を踏まえたインターンシップを実現するため、海外での教育実習を検証した（具体的な例として、Theresianum Academy, Rudolf Steiner School Wien-Mauer, Goethe Gymnasium, Japanese School in Wien でのウィーン海外教育実習）。教職課程のグローバル化に対応するため、海外教育実習を小学校英語教員養成プログラムに位置づけるとともに、学生にとって必要とされる異文化能力や英語コミュニケーション能力を育む教職課程を検討した。

(3) 平成 29 年度: 次世代を見据えた韓国と台湾の初等教員養成システムを参照し、日本の教員養成カリキュラムを見直し、小学校英語教員養成の高度化に関するカリキュラムを提案した（本田・建内・松宮他, 2019）。韓国及び台湾における教科専門科目の枠組みを参照し、今後の日本の小学校英語教員養成に関する教科専門科目の位置づけと履修基準を提案した。具体的には、韓国における小学校英語教員養成を有する大学を調査し、小学校英語に関する授業内容とその位置づけのデータベース化するとともに、韓国における 11 の大学と韓国教員大学校での初等教員養成カリキュラム（英語）と履修基準を参照し、各大学での取り組みや専門職基準（Professional Standards）に関する資料を提示した。また、台湾におけるコアカリキュラム（教育専門科目：児童英語 [Teaching English to Children] と國小英語教材教法 [English Language Teaching Materials and Methodology for Elementary Schools]）と関連する教科専門科目と日本の小学校教員養成課程「外国語（英語）コアカリキュラム」を参照し、小学校教職課程に所属する学生が必修として履修する小学校英語関連科目から、選択必修、さらには選択として履修する小学校英語専門科目へと段階的な運用を目指す小学校英語教員養成カリキュラムを提案した。

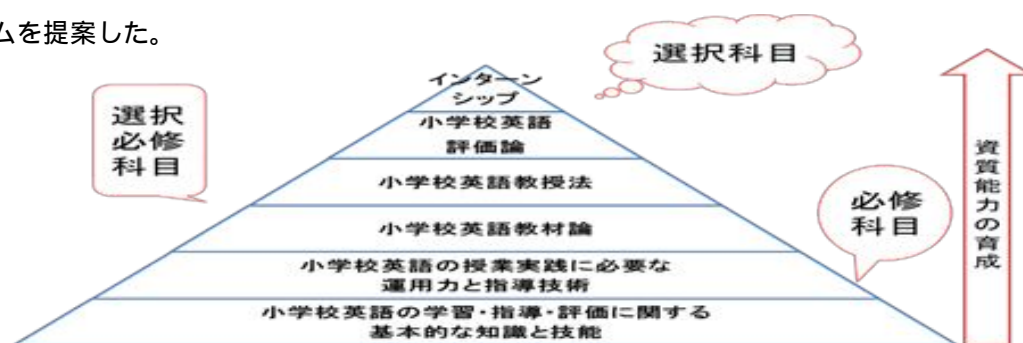


図 1 小学校英語教育カリキュラム構成案

このカリキュラム構成案は「教科としての英語教育」を踏まえ、目的論・教材論・方法論・評価論などの観点から、小学校英語教育を担う教員を養成するためのものである。小学校教員養成課程「外国語（英語）コアカリキュラム」を参照し、小学校教職課程に所属する学生が必修として履修する小学校英語関連科目から、選択必修、さらには選択として履修する小学校英語専門科目へと段階的な運用を目指す。また、既存の授業科目の枠を超えた学外学修プログラム（台湾におけるインターンシップや海外教育実習など）のような教員養成の高度化に対応する方策を模索した。特に中教審答申（第 184 号）「教員として求められる事項」に基づき、教科及び教職科目との相互補完関係を築く小学校英語の専門科目を提案し、指導的役割を担う小学校英語教員を養成するカリキュラムの位置づけをデザインした。

(4) 平成 30 年度: 教科専門科目を組み込んだカリキュラムを編成し, 専門職としての高度な知識と技能を身につけた小学校英語の指導的役割を担う教員を育成するための教員養成カリキュラムを提案した。具体的には, 東アジア諸国における小学校英語教員養成の枠組みやコアカリキュラムを参照し, 教科専門科目の履修内容を整理することによって, 英語を指導するのに十分な英語力と指導力を有する教員を養成する「指導的役割を担う小学校英語教員の養成カリキュラム」を提案した。また, 既存の授業科目の枠を超えた学外学修プログラム(インターンシップや海外教育実習など)のような教員養成の高度化に対応する方策を検証した。小学校英語教員養成におけるカリキュラムデザインを確立し, 教育実習の在り方を検証するとともに, 学校現場や教育委員会との連携・協働による実践型プログラムを提案した。小学校英語のための教員養成カリキュラムを具現化するため, 開発したカリキュラムの修正と改善, 各大学内での実施可能性などを踏まえて, カリキュラム基準を評価・確立した。全科担任養成から専科教員養成へと段階的に移行するための教科専門科目を構築することによって, 日本の担任養成を生かした小学校英語教員養成と指導者育成を報告した。本研究の成果は, 国内外の学会で発表し専門誌に投稿した。また, 公開 URL を作成し, 小学校英語の教員養成カリキュラムを公表するとともに, 参加者および専門家から「カリキュラム改善のフィード」を得た。本研究で取り組む「実践的指導力の育成を目指す小学校英語教員養成カリキュラム」は, 新たな教員養成と免許制度を見据えて, 現職教員の能力向上や教職大学院における教育実習の在り方を視野に入れたものである。今後の教員養成に資する研究として位置づけられる。

<引用文献>

本田勝久, 粕谷恭子, 建内高昭, 松宮奈賀子, 小学校外国語活動を指導できる教員の養成 - 質的水準を目指して -, 第 50 回大学英語教育学会記念国際大会シンポジウム資料, 2011
Honda, K., Takeuchi, T., & Kasuya, K., Pre-service training standards for foreign language activities in Japan, *The 3rd East Asian International Conference Proceedings on Teacher Education Research*, 2012, 27-29.

本田勝久, 建内高昭, 松宮奈賀子, 星加真実, 山本長紀, 染谷藤重, 田所貴大, 小学校英語教員養成の高度化に関するカリキュラム策定 - 東アジア諸国における教科専門科目の位置づけ -, 小学校英語教育学会紀要, 第 19 号, 2019, 212-227.

文部科学省, これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について—学びあい, 高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて—(答申), 2015, http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 20 件)

本田勝久, 青山拓実, 木田祐資, 田所貴大, ウィーン海外教育実習プログラム - 異文化交流を通じた高度教育実践 -, 千葉大学教育学部研究紀要, 査読無, 第 67 巻, 2019, 277-284
Katsuhisa HONDA, Takumi AOYAMA, Tahahiro TADOKORO, & Yusuke KIDA, The Overseas Teaching Practicum in Pre-Service English Teacher Training: A Qualitative Data Analysis Using SCAT, *Annual Review of English Language Education in Japan*, 査読有, Vol. 28, 2017, 289-301, https://doi.org/10.20581/arele.28.0_289

Katsuhisa HONDA, Takaaki TAKEUCHI, & Nagako MATSUMIYA, Pre-Service Teacher Training Practices for Primary English Education in Japan, *Journal of Elementary Education and Curriculum*, 査読有, Vol. 5, 2017, 69-79, <http://doi.org/10.15027/42792>

建内高昭, 小学校英語を見据えた e-learning 学習-English Central を利用した立場から-, 『グローバル人材育成を目指した愛知教育大学の取り組み』 愛知教育大学外国語教育講座編, 査読無, 2016, pp. 54-62, <https://iss.ndl.go.jp/books/R100000002-I027218558-00>
建内高昭, 本田勝久, 太田洋, 英語コミュニケーション力を高める Positive Feedback の一例-COLT Part A による台北教育大学附属小学校英語授業分析を通して-, 言語文化学会論集, 査読有, 第 45 号, 2015, pp. 31-40, <http://id.ndl.go.jp/bib/000000089405>

〔学会発表〕(計 21 件)

本田勝久, 建内高昭, 松宮奈賀子, 染谷藤重, 星加真実, 田所貴大, 山本長紀, 小学校英語教員養成の高度化に関するカリキュラム策定に向けて - 韓国における教科専門科目の位置づけ -, 日本児童英語教育学会 第 39 回全国大会, 2018

Katsuhisa HONDA, Takaaki TAKEUCHI, & Nagako MATSUMIYA, Teacher training Standards for Primary English Education in Japan: Practical Seminar for the Teaching Profession, The Third Global Teacher Education Summit: Envisioning the Teaching and Learning of Teachers for Excellence and Equity in Education, 2017

Katsuhisa HONDA, Takaaki TAKEUCHI, & Nagako MATSUMIYA, Pre-Service Teacher Training Practices for Primary English Education in Japan, The 11th International Symposium on Teacher Education in East Asia, 2016

Katsuhisa HONDA, Takaaki TAKEUCHI, Kyoko KASUYA, & Nagako MATSUMIYA, Pre-Service Teacher Training Standards for Primary English Education in Japan, The 10th International Symposium on Teacher Education in East Asia, 2015

〔図書〕(計 1 件)

鈴木由美子, 松宮奈賀子 他 13 名, 協同出版, 教師教育講座 第 6 巻 教育課程論(改訂版), 2018, 271 (199-225)

〔その他〕

ホームページ等(台湾, 韓国, 中国の各大学の情報及びカリキュラム等の資料一覧)

https://drive.google.com/open?id=1cIDGdMXVMtPG7-mU-_8SEDCmysZdQPoI

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名: 粕谷 恭子

研究分担者氏名: 建内 高昭

ローマ字氏名 (KASUYA Kyoko)

ローマ字氏名 (Takeuchi Takaaki)

所属研究機関名: 東京学芸大学

所属研究機関名: 愛知教育大学

部局名: 教育学部

部局名: 教育学部

職名: 教授

職名: 教授

研究者番号(8桁): 40456249

研究者番号(8桁): 10300170

研究分担者氏名: 松宮 奈賀子

ローマ字氏名 (Matsumiya Nagako)

所属研究機関名: 広島大学

部局名: 教育学研究科

職名: 准教授

研究者番号(8桁): 70342326